

THE HOGAKU RONSHU

THE LAW REVIEW
OF
KANSAI UNIVERSITY

MARCH 2021

VOLUME LXX

NUMBER 6

Articles

- Lutte contre la pandémie de covid-19 et ses problèmes constitutionnels en France *Hisanori MURATA* (1)
- Die Rechtslagen und Probleme der Organtransplantation in Japan *Keiichi YAMANAKA* (23)
—aus der Sicht des Rechtsvergleiches mit dem deutschen Recht— (3)
- Politics over the Border : The United States after Trump *Chieko KITAGAWA OTSURU* (113)
- The Commentary on the *Guidelines for Investigating Serious Cases of Bullying* established by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (1) ... *Kenji NAGATA* (146)
- Various Activities and Outcomes of the Ainu People towards the Ainu Policy Promotion Act through the Globalization (1)
—Prime Minister Nakasone's Remark 'Japan as homogenous State' and Activity of Ainu Association of Hokkaido at the UN Working Group of Indigenous Populations in 1987 (2) *Takeshi TSUNODA* (203)
- Über den Begriff der „Aussetzung“ in den §§ 217 ff. jStGB (2) *Hiroki YAMASHITA* (232)

Note

- Democratic Regime and Monarchical Institution : Preface to Politics of Symbolic Institution *Tetsuo MORIMOTO* (268)

Translations

- Hegels Erben in der Strafrechtswissenschaft : Hegelianer im 19. Jahrhundert (5)
Stephan Stübinger, Einfluss der Hegelianer auf die Strafrechtswissenschaft ihrer Zeit *Mitsuru IJIMA* (282)
..... *Hirokazu KAWAGUCHI*
..... *Tomoaki MORIKAWA*
- Alice Cruz
'Stigmatization as dehumanization : wrongful stereotyping and structural violence against women and children affected by leprosy Report of the Special Rapporteur on the elimination of discrimination against persons affected by leprosy and their family members' *Mitsuhide KIMURA* (301)

Material

- A Study of "Xiang Xing Yao Lan" (9) *Haruhito SADATE* (1)

THE LAW SOCIETY OF KANSAI UNIVERSITY
OSAKA, JAPAN

ISSN 0437-648X

關西大學

法學論集

第70巻 第6号

令和3年3月

論説

- フランスにおけるパンデミック対策と憲法 村田尚紀 (1)
- わが国における臓器移植をめぐる
法規制の現状と問題点 山中敬一 (23)
——ドイツ法との比較の観点から—— (3・完)
- 境界線をめぐる政治 大津留(北川)智恵子 (113)
——ポスト・トランプのアメリカ——
- 文部科学省策定「いじめの重大事態の調査に
関するガイドライン」の逐条解説 (1) 永田憲史 (146)
- グローバル化を手がかりとしたアイヌ政策推進にむけた
国内外での活動とその諸成果 (I) 角田猛之 (203)
——中曽根・単一民族国家発言と1987年の国連先住民
作業部会での北海道ウタリ協会の活動 (2)——
- 遺棄罪の諸概念の内容について (2) 山下裕樹 (232)

研究ノート

- 民主主義体制と君主制度 森本哲郎 (268)
——象徴制度の政治序説——

翻訳

- 刑法学におけるヘーゲルの遺産 :
19世紀におけるヘーゲル学派 (5) 飯島暢 (282)
森川浩智 川口智晶
- アリス・クルス
「ハンセン病患者・回復者及びその家族に対する差別
撤廃に関する国連特別報告者の報告書 非人間的扱
いとしてのステイグマ付与——女性と子どものハン
セン病患者・回復者に対する悪質なステレオタイプ
化と構造的暴力——」 木村光豪 (301)

資料

- 呉訥撰・若山拯訓読『祥刑要覽』の訳注 (九) 佐立治人 (1)

關西大學法學會

関西大学
法学論集

第七十巻
第六号

令和三年三月

関西大学
法学会

関西大学法学会役員（五十音順）

会 長
高 作 正 博

評議員

浅 野 宜 之
荒 木 修
栗 辻 悠
飯 島 暢
五十嵐元道
池田慎太郎(庶務)
池 田 愛
石橋章市朗
市 原 靖 久
伊 藤 吉 洋
今 西 康 人
上 田 真 二
植 村 新
浦 東 久 男
占 部 洋 之
大 住 洋
大津留智恵子
岡 本 哲 和(庶務)
尾 島 史 賢
梶 原 晶

柄谷利恵子
川 合 昌 幸
川 口 美 貴(庶務)
河 村 厚
木 下 智 史
木 原 淳(編集)
金 玲
権 南 希
葛 原 力 三
久 保 宏 之
隈 元 利 佳
小 泉 良 幸(監査)
後 藤 元 伸(編集)
小 西 秀 樹
近 藤 剛 史
今 野 正 規(編集)
酒 井 一
坂 本 治 也
佐川友佳子
笹 本 幸 祐
佐 立 治 人
佐 伯 和 也
下 村 正 明

白須真理子
高 作 正 博
多 治 川 卓 郎(会計)
辰 巳 直 彦
田 中 謙
津 田 由 美 子
角 田 猛 之
寺 川 永
寺 島 俊 穂(庶務)
中 島 洋 樹
永 田 憲 史
中 野 徹 也
中 村 哲
中 村 知 里(会計)
西 平 等
西 澤 希 久 男
西 村 枝 美(会計)
西 山 真 司
原 弘 明
馬 場 圭 太
早 川 徹
廣 川 嘉 裕
福 島 豪(会計)
藤 原 稔 弘

松 尾 知 子
松 代 剛 枝(庶務)
水 野 吉 章
村 上 幸 隆(編集)
村 田 大 樹(庶務)
村 田 尚 紀
元 氏 成 保(庶務)
森 宏 司
森 田 崇 雄(会計)
森 本 哲 郎
安 武 真 隆
大 和 正 史
山 名 京 子
山 名 美 加(編集)
山 中 友 理(会計)
山 本 慶 介(編集)
由喜門真治
横 田 直 和
吉 沢 晃(編集)
吉 田 栄 司
吉 田 直 弘
吉 田 徳 夫
若 月 剛 史

前 号 目 次（第70巻第5号）

論 説

法多元主義と「新しい中世」……………	市 原 靖 久
わが国における臓器移植をめぐる法規制の現状と問題点……………	山 中 敬 一
——ドイツ法との比較の観点から——（2）	
有名義破産債権の確定手続（3）……………	栗 田 隆
条約への再加入時に付された留保の効力（1）……………	中 野 徹 也
いじめの重大事態の調査のための説明事項の説明に関する考察……………	永 田 憲 史
——「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」の遵守を目指して——	
グローバル化を手がかりとしたアイヌ政策推進にむけた アイヌ民族の国内外での活動とその諸成果……………	角 田 猛 之
——中曽根・単一民族国家発言と1987年の国連先住民作業部会での 北海道ウタリ協会の活動（1）——	
フランス法における私訴権の意義……………	今 野 正 規
抽象的作為請求としてなされた放射性物質の 除去請求における訴えの適法性……………	池 田 愛

秦朝の法医学の先進性について……………	佐 立 治 人
判 例 研 究	
公立学校の教員の非違行為の重大性の判断に当たって、いじめ防止 対策推進法及び地方いじめ防止基本方針等を判断資料とした事例…	永 田 憲 史
（最判令2年7月6日裁判所ウェブサイト登載）	
パブリシティ権の独占的利用許諾を受けた者による損害賠償請求…	隈 元 利 佳
——大阪高判平成29・11・16判時2409号99頁（Ritmix事件）——	

翻 訳

刑法学におけるヘーゲルの遺産： 19世紀におけるヘーゲル学派（4）……………	飯 島 暢 一
---	---------

資 料

昭和22年までに制定された法律の法令名について……………	横 田 直 和
——題名と件名を区別して——	

関 西 大 学 法 学 会 規 則

- 第1条 本会は、関西大学法学会と称する。
- 第2条 本会は、法学の研究を促進し、かつ研究の成果を発表することを目的とする。
- 第3条 本会は、次の事業を行う。
- 1 機関誌「関西大学法学論集」及び「関西大学法学会誌」の発行。
- 2 その他本会の目的を達成するために必要な事項。
- 第4条 本会は、大阪府吹田市山手町3-3-35に置く。
- 第5条 本会は、次の者をもって会員とする。
- 1 法学部及び大学院法務研究科（以下法科大学院と称す）の教授、准教授、助教、特別契約教授。
- 2 政策創造学部教授、准教授、助教、特別契約教授であって入会した者。
- 3 法学部、大学院法学研究科、法科大学院、政策創造学部またはガバナンス研究科の非常勤講師であって入会した者。
- 4 法学部学生、大学院法学研究科学生及び法科大学院学生。
- 5 政策創造学部の学生であって入会した者。
- 6 法学部、政策創造学部、大学院法学研究科及び法科大学院の卒業生であって入会した者。
- 7 その他評議員会の承認を得た者。
- 第6条 次の者を本会の名誉会員とする。
- 1 法学部又は法科大学院に在籍した名誉教授。ただし、特別契約教授として在職中の者は除く。
- 2 特に評議員会の承認を得た者。
- 第7条 本会に次の役員を置く。
- 1 会長 法学部長をもって充てる。
- 2 評議員 教授、准教授、助教及び特別契約教授をもって充てる。
- 3 編集・庶務・会計各委員 評議員の中から評議員会において委嘱する。その任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第8条 第5条第1号及び2号の会員は会費年額12,000円を、同条第3号から7号までの会員は会費年額4,500円を納めることを要する。
- 第8条の2 会計年度は、毎年4月1日から3月31日までとする。
- 第9条 会員及び名誉会員は、機関誌「関西大学法学論集」及び「関西大学法学会誌」の配布を受ける。
- 第10条 この規則の改正は、評議員会の決議による。
- 付則 この改正規則は、2019年7月10日から施行する。

2021年2月22日 印刷
2021年3月1日 発行

関西大学 第70巻
法学論集 第6号

編 集 兼
発 行 人

関 西 大 学 法 学 会
振替 00910-4-66882

印 刷 所

(株)富山房インターナショナル
東京都文京区千石2-25-11

発 行 所

関 西 大 学 法 学 会
大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
関西大学法学部内

